

くじけの鬼

絵 中川 学



くにさきの鬼

ある冬の日、
たろうは、おばあさんのすむ
くにさきへ やってきた。

くにさきの山には
むかーしも いまも 鬼がおる。
年にいちど ふもとの里へと
やって来ちくるるんよ。





「たろうは、オニサマに会うたこつ あるかなあ？」

「え？ 鬼？」

「山の岩屋に住んじよる オニサマじゃ。」

「鬼なんて おらんのん ちゃうん？」



「くにさきのオニサマはなあ、
たったのひとばんで 99だんの石を つみあげちみたり、
大岩を せなかで ばしいと わったりでくるんち」

「ばあちゃん、鬼^{おに}って ほんまにおるん？」

「明日^{あした}はお祭り^{まつ}じゃけん、
たろうも オニサマに 会^あえるじゃろう」



夜も とつぷりふけたころ、
ふと たろうが 目をさますと、
目の前に 見知らぬ少年がいた。

「え、だれや？」

「ぼくは 太郎天だ」
「きみを 鬼のところに つれて行ってあげるよ」

そういと太郎天は、
くるんとまわり、ぶおんと 風をまきおこした。





目を開けると、たろうは 夜空を とんでいた。

見下ろすと、おぼうさまたちが
しんけんな 顔つきで 石橋を かけぬけている。



「うわっ、橋がくずれそうや！」

「これは、ぼうさまの修行なんだ」

太郎天は そういうやいなや、
またもや ぶおんと 風をまきおこした。





たろうは、
おお大きな岩屋いわの前にまへに立たっていた。

「おぼうさんが なんか ゆうてる」
 「不動明王ふどう みょうおうに、
 じゅもんを となえているんだよ」

ナマ
 サマシダ
 バサラナン
 センダ
 マカロシヤナ
 ソワタヤ
 ウンタラタ
 カンマン……

すると、おぼうさまのからだ体が
 見る見るうちにおお大きくなって…





おに
「鬼や！」

たろうは、あまりのおそろしさに
ぎゅっと目をつむった。

おそるおそる ^め目をあけてみると、
たろうは、おばあさんの家^{いえ}に
もどっていた。

「あーこわかったあ…。
もうあかん おもたわ」



今日は鬼のお祭り。

たろうも、おばあさんにつれられて
やってきた。

どーんっ
ばちばちばちっ

「あつっ！」
「火の粉 飛んできよる！」



お堂どうにやってくると、中央ちゅうおうに二人ふたりの鬼おにがあらわれ、
大声おおこゑでひょうしをとりながらおどりはじめた。



「うわ！ きおにのうおにの鬼？」

鬼おには、ひとしきり おどったあと
お堂どうから とび出だした。

向むかった先さきは…

おばあさんの家だった。

しんせきや 近所の人がたくさん集まっている。


「オニサマが来ちくれたらな、一年間、
みながなかよく、幸せにくらせるんじゃ。
じゃけん、今日は
オニサマをもてなす日なんよ。」

「ほれ たろう、

オニサマのそばに行っちみよ」



そうして、明け方まで楽しいうたげはつづいた。
たろうは、とちゅうでねてしまったけれどね…。



こげしち、くにさきには むかーしからな、
年^{ねん}にいちどのお祭りに 鬼^{おに}がやってきちくるんよ。

そげしよるうちに、くにさきの里^{さと}に 春^{はる}がやってくるんよ。

いまでもくにさきの山には鬼がおる。
来年も、そのつぎも、そのまたつぎも
里へと春をとどけちくるるじゃろう。



おしまい

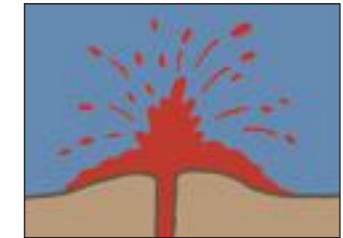
くにさきの鬼図鑑



日本には、恐ろしい鬼だけではなく、地域に根ざしたさまざまな鬼がいます。なかでも、
くにさきの鬼は人々に幸せをもたらす「仏様」に近いものと認識され、慕われています。

奇妙な岩山は どうやってできたの？

約150万年前の火山活動で、国東半島の山々が誕生しました。その後長い間火山活動がなかったために、山体の侵食が進み、現在の姿になりました。



約150万年前に火山活動が起こりました。ふき出した溶岩には強いねばり気がありました。



ねばり気のある溶岩は遠くへ流れずその場で冷えて固まり、さらに火山灰がその上に積もって固まり、ずんぐりと円い山になりました。



風雨が岩の弱い部分（火山灰の成分が多い場所）を削り取って、ノコギリの歯のような地形になりました。



何かの拍子で溶岩の大岩が転げ落ちて内部がむき出しになると、風雨で削れていき、岩穴ができました。



鬼がすむ くにさきの岩山

遠い昔、「くにさき」は、都のかなたにある辺境の地でした。ノコギリの歯のように連なる奇岩・怪石の向こうは、自分たちの理解を超えた恐ろしい鬼がすむ「大魔所」と考えられ、たいそう恐れられていました。とうてい人が近づけない切り立った崖に空いた岩穴は、おそろしい力をもつ鬼のすみかと考えられていたのです。

鬼城 並石ダムから望める奇岩秀峰は、「鬼城」とよばれています。豊後高田市加礼川 (▶ P39-⑦)

くにさきに伝わる 鬼の伝説

切り立った奇岩が立ち並ぶ「くにさき」。そこには、数々のふしぎな伝説や民話が残り、今でもその場所を訪れることができます。

1 鬼が築いた石段 豊後高田市田染平野 (▶ P39-②)

昔むかし、田染の里に人を食らう赤鬼がやってきました。その土地にすむ権現様*は、夜明けまでに100の石段を築くことができれば、人を食べることを許すと約束します。赤鬼はみるみるうちに99の石段を築いたので、権現さまはあわてて「コケッコウ」とニワトリの鳴き真似をしました。それを聞いた赤鬼は、最後の石をかついだまま逃げたそうです。



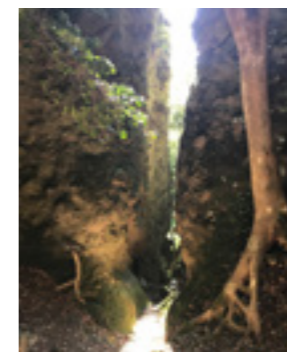
2 紀行平と鬼が城 豊後高田市夷 (▶ P39-③)

鎌倉時代、後鳥羽上皇のもとで刀鍛冶を務めた名刀匠に紀行平という者がいました。晩年、故郷の夷に戻った行平は、岩屋で一人刀作を続けました。真っ赤な顔で鋼を打つ様子は「鬼神太夫」とよばれるほど、荒々しく迫力がありました。その姿から、行平が刀作した岩屋を「鬼が城」とよぶようになりました。国東市鬼籠にも似た話が伝わっています。



3 鬼橋と鬼の背割り 国東市両子寺 (▶ P39-④)

昔むかし、両子寺に千徳坊という僧侶がいました。千徳坊はそれは大変な力持ちで、寺院の敷地を流れる谷川に大岩を持ってきて橋を渡しました。また、道をさえぎるようにしてそびえる岩壁を背中で割って、先に進めるようにしました。怪力の千徳坊は鬼とよばれ、大岩の橋は鬼橋、背で割った岩壁は鬼の背割りともよばれるようになりました。



4 岩戸寺の荒鬼 国東市岩戸寺 (▶ P39-⑤)

昔むかし、市ノ坊という僧が岩戸寺におりました。ある年、荒鬼になって暴れだし、鬼止石（結界石）を越えて市ヶ谷まで飛び出してしまい、そこで死にました。そのとき、かぶっていた鬼の面が飛んで伊美の権現の鼻に食いつきました。このときから、岩戸寺には荒鬼の面がなくなり、修正鬼会の晩には、権現の鼻に火が灯ると伝えられています。



*権現様ってなに？ 人びとを救うため、仏様の姿になって現れた日本の神様のこと。平安時代に発生した思想で、神の本래の姿は仏であるという考えがもとになっています。

ナマ
サマシ
バサラナン
センダ
マカロシヤナ
ソワタヤ
ウシタラタ
カンマン

峯入りで ひらかれた 鬼のすみか

中世になると、「くにさき」では、鬼の靈力や獠猛さに圧倒された僧侶たちによって、鬼を神の化身と考えるようになっていました。僧侶たちは鬼の靈力を身につけるために、鬼がすむ大魔所に入り、修行をするようになります。これを「峯入り」といいます。こうして、人の近づかない大魔所であった「くにさき」に多くのお寺ができ、人の住む里へと次第にひらかれていったのです。



▲岩屋で祈りをささげる僧侶。

◀2010年に行われた峯入りのようす。道中、絶えず呪文（真言）を唱えながら進みます。くにさきの峯入りは現在も続けられています。

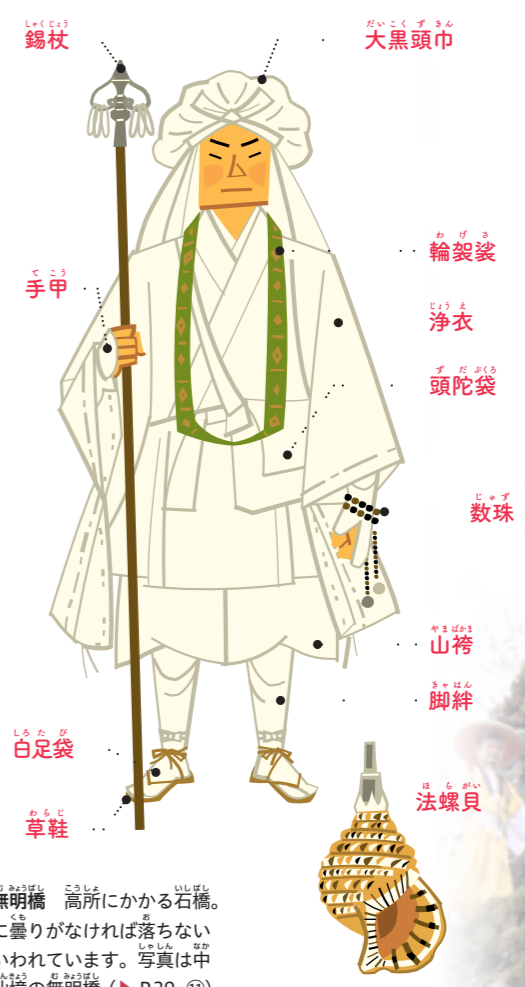
*真言ってなに？ 仏様の真実の教えがこもった秘密の言葉。

峯入りの修行って なにをするの？

峯入りは、最初にくにさきで修行を行ったと伝わる仁聞菩薩*の修行跡をたどるものです。半島をほぼ1周する約160kmを4日間で踏破します。道中には、大岩を飛び移ったり、高いところかけられた橋を渡ったりと、危険な場所がいくつもあります。そうした危険な峯道を、鬼の靈力を自らのものにするため、僧侶たちは駆けるように進みます。また、一行を道端で待ち受ける集落の人たちに加護をするのも目的のひとつです。「加持」とは、災いを取り除くために仏の加護を祈ることです。



◀無明橋 高所にかかる石橋。心に曇りがなければ落ちないといわれています。写真は中山仙境の無明橋 (▶ P.39-①)。



白装束をまといます。心身とも上げがれないことを表していますが、死装束であるともいいます。峯入りによって今までの自分を捨て、新たに再生する姿を現しているとも考えられます。

岩屋って どんなところ？

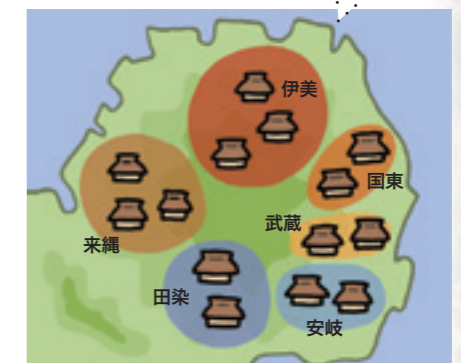
大岩にぽっかり開いた洞穴や、切り立った岩壁のえぐられたような場所を岩屋といい、そこに鬼がすむと考えられていました。僧侶たちは岩屋で夜を過ごし、仏像を安置して祈りをささげました。



▲岩屋にはやがて、山岳寺院が建てられるようになりました。岩屋は「奥の院」として、今も受けつがれています。

*仁聞菩薩ってだれ？ 宇佐神宮にまつられる八幡神が、菩薩に変身した姿と伝えられています。

六郷満山



いまからおよそ1300年前の奈良時代に、仁聞菩薩が修行のための寺院を「くにさき」に初めて開いたと伝えられています。その後「くにさき」にはいくつも寺院が建てられ、それらすべての寺院を「六郷満山」とよぶようになりました。「六郷」とは、かつての「来縄・田染・伊美・国東・武蔵・安岐」の6つの地域を指しています。

鬼と出会う
年に一度のお祭り

修正鬼会



主な登場人物

修正鬼会は、お寺とその地域の人々が協力して行うお祭りです。僧侶と地域の人が役を割り振ります。



タイレシ (松明入れ衆)
修正鬼会に奉仕する役のひとつで、集落の人が担います。鬼を講堂に連れ出したり、大松明をかついだり、鬼の付き添いをしたりする役です。



鈴鬼
仏の慈悲を表したものとわれ、鬼を招き出す役です。男女の老人の面をつけた2名の僧侶が担います。

GOAL!

明け方ようやく終了です。



鬼 (災払鬼・荒鬼・鎮鬼)
鈴鬼が招き、タイレシが背負って連れてきます。災払鬼、荒鬼、鎮鬼がいますが、寺によって異なります。

🕒

講堂に戻る 午前3時ごろ

地区を回った鬼は寺に戻ると最後のひと暴れをしますが、タイレシが押さえつけて鬼鎮めの餅をくわえさせると静まり、僧侶に戻ります。



岩戸寺と成仏寺のみで行われる行程です。

🕒

鬼が家々を回る 午前0時ごろ

鬼はタイレシと共にお寺を飛び出して集落に下り、家々を訪問します。仏壇にお線香を上げ、お経を読んだら腰に着き、人々と酒を飲み交わします。

🕒

加持祈祷 午後11時ごろ

鬼は、持っている松明で参拝者の肩や背などを軽くたたいて加持をします。

修正鬼会は、江戸時代には20か所以上の六郷満山の寺院で行われていましたが、現在は、半島西側の天念寺と、東側の成仏寺・岩戸寺の3か所で行われています。岩戸寺を例に見てみましょう。

START!



岩戸寺・講堂
修正鬼会の主要な舞台。江戸時代の建物です。



垢離取り 午後6時半~

厳寒のなか、タイレシが境内を流れる小川の淵に体を浸してお清めをします。



タイアゲ 午後7時半~

杉丸太を割竹で束ねた大松明に火がつけられ、タイレシがかつぎ上げて山門前に献灯します。



香水 午後10時ごろ

2名の僧侶が香水棒とよばれる棒をもち、お経を読みながら激しく舞います。場を清める舞い。



鬼走り 午後10時半ごろ

2名の僧侶が岩屋で災払鬼と鎮鬼になると、タイレシに背負われて講堂に現れます。鬼はタイレシと並んで、大声で「オーニハヨー、ライショハヨー」と叫びながら左右前後に飛び、松明を打ちつけます。



鈴鬼 午後10時ごろ

2名の僧侶が鈴鬼になり、鈴と御幣を持って舞い、鬼を招きます。

修正鬼会の主な流れ (岩戸寺)

- ◎ 午後3時~ 屋の動行 (講堂)
僧侶が読経を行う
- ◎ 午後5時~ お齋 (本堂)
僧侶や役付の人々が食事をする
- ◎ 午後6時半~ 垢離取り
タイレシたちが体を清める
- ◎ 午後7時~ 盃の儀 (本堂)
鬼会の成功を祈願する
- ◎ 午後7時半~ タイアゲ
タイレシがオオダイ (大松明) を献灯する
- ◎ 午後8時半~ 夜の動行 (講堂)
僧侶が読経を行う
- ◎ 午後10時~ 立役 (講堂)
場を清めて結界を結び、鬼を招く
- ◎ 午後10時半~ 鬼走り (講堂・地区内)
鬼が登場、松明で参拝客をたたき、寺を出て家々を回る、講堂に戻り鬼から僧に戻る

*オニオ 地元では修正鬼会のことをオニオ、あるいはオニヨとよびます。

くにさきの鬼

神仏の化身として人々に親しまれるようになった「くにさき」の鬼は、災いを取り除いて人々に福をもたらす存在となりました。新年の幸福と厄払いのお祭り、「修正鬼会」の鬼を見ていきましょう。

鬼のすがた

修正鬼会に登場する鬼のすがたには、詳しく見ていくと、いろいろな特徴が見られます。



松明
左手に松明を持って暴れます。また、火のついた松明で人間の体を軽くたいて、無病息災などを叶えます。

まさかり
鬼の持ち物のひとつで、山の恵みの象徴です。

ホーレンシヨーク、ソラオンニラヨ。

オーニハヨ、ライシヨークハヨ。

髪の毛
鬼やつしやとよばれる草の葉を鬼会面にしばりつけます。鬼やつしやの和名はセキショウ（石菖）です。

剣
鬼の持ち物のひとつで、知恵の象徴です。

木槌
鬼の持ち物のひとつで、富の象徴です。

つる
胸・腕・足のそれぞれを12か所白いフジのつるの繊維でしばり、背中に鈴を結びつけます。鬼の力を弱めるためにしばると考えられています。

草鞋
鬼は神聖な存在で、みだりに土を踏んではいけません。

ここがポイント！

修正鬼会の鬼は不動明王？

修正鬼会に登場する鬼は、仁間菩薩や不動明王の化身などとされています。不動明王は行者を守り修行を成就させる仏様で、悪を滅ぼし、人々に幸をもたらす不思議な力をもつと信じられています。修正鬼会の鬼の持ち物には、不動明王の持つ剣があります。また、鬼がすむといわれる「くにさき」の岩屋には、不動明王がよくまつられています。一般に、不動明王は怒りを表した恐ろしい表情ですが、鬼が親しまれたくにさきでは、丸顔で優しい表情をした像が多くあるのも特徴です。

真木大堂 (P39-③) の木造不動明王立像。右手に剣をもち、炎を背負っている。



鬼会面

かつて六郷満山の多くのお寺で修正鬼会が盛んに行われていたころは、地区ごとに異なるさまざまなお面が使われていました。



鬼のごちそう

修正鬼会の際の食べ物です。お寺や地域の民家で用意します。



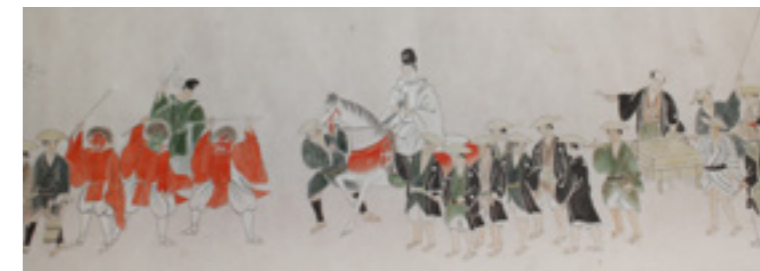
鬼の目覚まし
竹串に丸餅をさして、コシヨウ（唐辛子）入りの味噌をつけて焼いたもの。修正鬼会の最中に、眠気覚ましに食べます。



鬼の御膳
鬼の訪問を受ける家で用意するオニサマ*の御膳。こんにやくや椎茸の煮物、煮豆、吸物、刺身、巻寿司などと酒を出します。



修正鬼会の加持祈祷では、松明を持って人々の背中をたたき、災いを取りのぞき、福をもたらします。



春日神社 (P39-②) に伝わる「大潮汲巻」には、雨乞いの行列を鬼が先導しているようすが描かれています。

福をもたらす鬼の力

くにさきの鬼は神仏の化身として、人々に霊力を表します。手を合わせて待つ人に、病気の治癒や災いを取りのぞくお祈り「加持祈祷」を行います。

*オニサマ 地元では修正鬼会の鬼のことをオニサマとよびます。

日本の鬼

古代中国では、鬼は単に死者の魂のことを指しました。それがだいに亡霊や妖怪などへと変化し、恐怖の対象となりました。一方、「鬼」という漢字が中国から伝わる前の日本にも「オニ」がいたと考えられています。古代の日本人の感性や時代背景、度重なる自然災害に疫病、仏教との関わりなどが複雑にからみあって生まれた、日本各地の鬼を見ていきましょう。

日本の鬼とは何だろう？

日本の鬼には、いくつかの考え方があります。

1 恐ろしい怪物（仏教に関連）

頭には角が生え、口には牙があり、虎の皮のふんどしを巻いて、手には棍棒をもつ。節分や桃太郎に出てくる鬼もこのイメージ。地獄の鬼（閻魔王の配下）や邪鬼、夜叉など。

2 神様や超常現象

山で世間から離れて暮らす、人間ではないもの。天狗、妖怪、鬼神、山ノ神など。

3 ご先祖様（祖霊）

人は死んだら集落の山に宿り、子孫の暮らしを見守り、新年と盆に祝福に訪れると考えられていました。姿が見えないことから「隠（オヌ、オン）」と呼ばれ、それが変化して「オニ」になったとも考えられています。

「鬼」は、こんなときにも使うよ！

- 大形であるようす（オニヤンマ、オニヒトデ）
- 勇猛であるようす（鬼将軍）
- 非情であるようす（鬼検事）
- 集中して頑張るようす（仕事の鬼）

日本各地の鬼

各地に残る鬼の言い伝えやお祭りを紹介します。

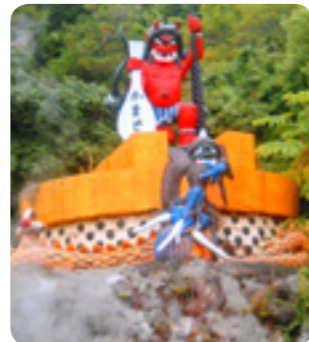
天狗（日本各地）

深山にすむ妖怪。赤ら顔で鼻が高く、翼があり、山伏の姿をしていて、金剛杖に太刀、羽団扇をもっています。鬼や人間に姿を変えることができます。写真は鞍馬山（京都）の天狗像。



地獄の鬼（日本各地）

地獄の閻魔王に仕える鬼。地獄に落ちた人間に苦しみを与える役割をもちます。写真は、大分県別府温泉の地獄の鬼像。



修正鬼会の鬼（九州）

大分県国東半島のお寺で行われる、一年の災厄をはらうお祭り。鬼が登場し、人々に加持祈禱を行います。



パートゥ（沖縄）

パートゥと呼ばれる鬼が悪霊を払う宮古島のお祭り。面をつけて、泥を塗った体に植物のつるを巻き、人々に泥を塗りつけ災厄をはらいます。



なまはげ（東北）

秋田県男鹿半島の小正月（1月半ば）の行事で登場する鬼。神の使いとされ、家々を回って悪い子にお仕置きをするぞと言って良い子にさせます。



酒香童子（近畿）

平安時代に多くの鬼を部下に持ち、平安京で財宝や美しさをさらったとされる伝説上の鬼の親分です。源頼光らに退治されるおとぎ話が有名。そのとき戦ったよりみつ、けいり、ひとりの、さかたの、坂田金太郎は、昔話「金太郎」のモデルといわれています。



日本人の心の中には、古代のころから鬼が息づいています。時代が変わったいまも、とりわけ理由がなくとも、それを信じる心が脈々と受けつがれています。

桃太郎の鬼（中国）

中国地方に多く伝わるおとぎ話で、桃太郎に退治される鬼。吉備地方に伝わる温羅伝説が元になったともいわれています。



牛鬼（四国）

四国地方に多く伝承が残る妖怪で、牛の体に鬼の顔をもつ。戦国武将加藤清正が朝鮮の役で敵を威圧するために使用したのが始まりなどと言われています。写真は、宇和島市の牛鬼祭り。



世界にも鬼がいる！

鬼に似たものは、ヨーロッパを始めとするキリスト教の国々などにも存在しています。キリスト教がひろまる前のヨーロッパでは、各地域にその土地特有の宗教や悪霊払いの風習がありました。なかには、日本の鬼に似た怪物のようなものもあります。

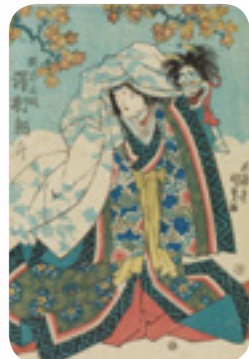
チェゲツェ

スイス南部レツェン谷に伝わるお祭りに登場する、恐ろしい形相の面やヤギや羊の毛皮をかぶった怪物。家々を回って悪霊をはらうなど、日本にいる鬼にも似ています。



滝夜叉姫（関東）

平安時代の武将、平将門の娘とされる女性。霊術を使うという伝説が残され、歌舞伎などで脚色されて描かれます。



花祭の鬼（中部）

奥三河で700年以上続くお祭りに登場する鬼。鬼が焚き火の山を大きくはね上げて、悪霊をはらいます。

*オニがつく名前 オニトマキエイ（世界最大のエイ）、オニアザミ（トゲがあるアザミ）、オニユリ（赤鬼に似たユリ）

未来に
つなげたい

くにさきの宝

峯入りの修行も、くにさきの鬼を生み出した心も、修正鬼会を連綿とつづける思いも、すべて、くにさきの人々が生きてきた跡で、その積み重ねが今を形作っています。くにさきの魅力は、寺や仏だけにあるのではなく、そのまわりに広がる山や田園風景のなかにもあります。そして、人々の営みもその一部に組みこまれているのです。

くにさきの文化財



たしほのしょう
あさきちく
のうそんふうけい

田染荘 小崎地区の 農村風景

古代の人々が作った水田の区画をそのまま現代に引き継ぎ、今もなお残っている貴重な風景です。水路やあぜ道にも歴史が積み重ねられ、守られています (▶ P39-④)。



田染組小崎村絵図

元禄2年(1689年)の様子を描いたとされる絵図。田染荘小崎では、地形に合わせて作られた大小形もさまざまな水田が現在でも見られます。数百年前の村落の様子を色濃く残す場所として、国の重要な文化的景観に選定されています。



磨崖仏

岩壁などに直接彫られた仏像。インドのアジャンター石窟が有名です。日本では平安時代からつくられ始め、大分・くにさきは磨崖仏の宝庫として知られています。

熊野磨崖仏 (▶ P39-②)

胎蔵寺から熊野神社へいたる参道脇にある大分県最古・国内最大級の磨崖仏。向かって右に大日如来、左に不動明王が岩肌に浮き彫りにされています。不動明王は8mを超える大きさです。

国東塔

全国的にも石造物が豊富な国東半島に数多く分布する仏塔で、経典を納めたり墓標などの目的で造られました。若戸寺のものは、国の重要文化財に指定されています。



若戸寺 (▶ P39-⑩)



江戸時代から
変わらずつづく
神楽

日本神話の神様に捧げる歌や踊り。豊作や豊漁を願い、病気をはらう神事として、土地の守り神に捧げられます。

夷里神楽

文殊耶馬の自然林

巨大なケヤキやスダジイ、カシ、スギなどが大変美しい景観をつくりだし、国の名勝に指定されています (▶ P39-⑰)。

くに さき はん どう ぶん か ざい 国東半島文化財MAP

くに さき はん どう ぶん か ざい
国東半島には、古代や中世の世界を今に伝える魅力的な文化財が数多く残っていて、その歴史の重みを感じることができます。風化しにくい石造物が多く、その姿を昔と同じように見ることができるのです。



1 宇佐神宮

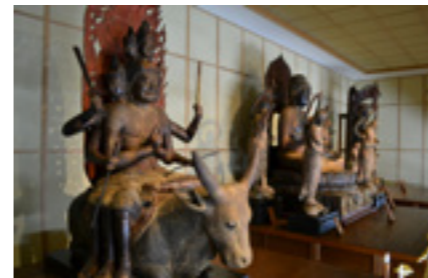
全国の八幡宮の総本社。



2 愚が築いた石段・熊野磨崖仏

3 真木大堂

日本最大級の木造不動明王立像をはじめ、阿彌陀如来坐像、大威徳明王像など9体の仏像が安置されています。



4 田染荘

5 富貴寺大堂

平安時代に建てられた、現存する九州最古の木造建築です。日本三阿彌陀堂のひとつ。



6 長守寺・太郎天像



子供の姿をした像ですが、不動明王の化身とされ、峯入りの修行僧を見守ってくれる存在です。

7 愚城

8 天念寺

六郷満山寺院のひとつ。長岩屋川沿いの巨岩を彫って造られました。



9 天念寺耶馬・無明橋

10 無動寺耶馬

11 中山仙境(妻谷)・無明橋

高さ50mの岩壁が立ち並ぶ独特な景観をしています。



12 六所神社

6柱*の神様をまつる神社。御旅所の楽庭神社では夷里神楽が奉納されます。



13 愚が城

14 大不動岩屋

峯入りの修行の道にあり、奇岩が立ち並ぶ庄巻の景色を眺めることができます。



15 五辻不動尊

仁聞菩薩が修行をした、不動明王をまつる岩屋です。



16 岩戸寺・国東塔

17 文殊仙寺・文殊耶馬と自然林

18 成仏寺

国の重要無形民俗文化財に指定されている修正鬼会が行われる神社。



19 丸小野寺

子供による修正鬼会「子供鬼会」が開かれます。

20 両子寺

国東半島中央の両子山の中腹にある六郷満山寺院のひとつ。



21 春日神社・大潮汲絵巻

*柱 神様を数えるときは、1柱、2柱と「柱」を使います。